

Newsletter

2009 vol.1

2009年6月3日 発行
奈良教育大学 大学院
教育学研究科 教職開発専攻
〒630-8528 奈良市高畑町
TEL&FAX 0742-27-9354
<http://www.nara-edu.ac.jp>
発行 奈良教育大学 教職大学院広報係

目 次

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1.教職大学院は2年目を迎えました…… 1 | 3. 研究室だより…… 3 |
| 2.新入生合宿研修会を行いました…… 2 | (1) もめごとが起こるのは自然なこと |
| 新入生の声 | (2) 児童の言語意識育成のために |
| (1) 成果の多かった合宿研修 | 4. 院生室「宙（そら）」から…… 4 |
| (2) 人との距離が近くなった研修会 | 5.研修会等案内 |
| | ☆ 編集後記 |

1 奈良教育大学教職大学院は開設2年目を迎えました



昨年は、本学が師範学校創立以来120周年という大きな節目の年でした。この記念すべき年に開設された本学教職大学院は、初年度の諸課題を一つひとつ克服しつつ着実に成果を重ね、本年4月、21名の新しい院生を迎え、2年目の新たなスタートをきりました。

院生、教職員が一層の充実を目指し、さらに一丸となって取り組んでいく決意を新たにしています。

2 新入生合宿研修会を行いました

4月10日（金）～11日（土）
於 奈良ユースホステル

新入生同士の親睦を深め、教職大学院での学びの第一歩を踏み出すことを目的に、合宿研修会が行われました。最初は緊張気味の新入生でしたが、個性溢れる自己紹介で次第に打ち解け、ストレート、社会人、現職教員の各院生が共に楽しい時間を過ごしました。2日目は、「目指す教師像」のグループに分かれて、入学への思いを語り合ったり、人間関係づくりのワークを行ったりして学びの志気を高め合う2日間になりました。



新入生合宿研修会でのワーク

(1) 成果の多かった合宿研修

院生（09年度入学） 藤原 愛子

今回の合宿を通して、最も学んだことは“共に学ぶ仲間の大切さ”です。そして“指導して下さる先生方の温かさ”です。

教職大学院に入学し、周りに知る人もなくゼロからの始まりでした。しかし、この合宿を通してこれからの自分が想像でき、所属感を得ることができました。

また、4つの教師像に関してもイメージをつかむことができ充実していました。どの教師像を深めるか時間をかけて決めていきます。今後、仲間と支え合い、勉学に努めてまいります。



奈良ユースホステル前にて

(2) 人との距離が近くなった研修会

院生（09年度入学） 吉岡 久美

年齢もそれぞれのバックグラウンドも異なる人たちが、子どもたちのよりよい発達のプロセスに関わりたいという共通の夢の元に集まり、教育に対する思いや、今日まで体験・経験してきた事गरらをシェアできたことにより、大きな刺激を与えてもらいました。

プログラムの取り方によっては、ゆっくりと話をしてお互いを知ることが難しいと思われる中で、今回の合宿では初対面の壁をとり払い互いに成長できる仲間と感じられ、色々な場面で切磋琢磨できるように思いました。仲間から多くのことを学ばせてもらい考えさせてもらえる時間でもありました。

また、先生方とゆっくりお話ができたことは、とても有意義な一時でした。日常のお話から専門的なお話まで、幅の広いお話を聞かせてもらえたことで、先生方の教職大学院への熱意を感じさせてもらい、そのような中で勉強させていただける環境を与えてもらっていることを、とても嬉しくありがたく思います。

(1) もめごとが起こるのは自然なこと

教職大学院教授 池島 徳大

■問題解決能力が益々求められる日本の教師



学校現場では、子どもたちの対人関係能力の未熟さなどから、トラブルとなることが少なくありません。いじめや不登校の要因にもなりかねません。実際、先生の助け船が

効を奏せず、子どもの問題が先生と当事者あるいは保護者との問題にすり替わってしまうことも珍しくありません。解決にあたっては「もめごと（対立）が起こることは自然なこと」「人間関係を創っていくよい機会」と覚悟をきめて、両者の言い分をじっくりと聞き、聞いてもらっていないという不満を抱かせないことがポイントです。

■日本の学校教師に必要な3つのスキル

私は、日本の学校教師に必要なスキルとして、次の3つを提案しています。1つめは「友だちづくり (Be friending) スキル」。2つめは、「傾聴 (Active listening) スキル」。3つめは「対立解消 (Conflict resolution) スキル」です。子どもたちが安心して自分の気持ち（言い分）を表明するには、どのような言語的・非言語的メッセージが必要か。それを知るには自ら体験して得る学習が一番です。臨床医学でいう「手技」の獲得です。

もめごと問題を扱った大学院での授業の一コマです。演習後の振り返りで、当事者役の院生が、「（解決を図ろうとした）先生役の方が私の方をあまり見ないで話し合いを進められ、そのとき、私は受入れられていないなと感じた」という感想を出されました。学びの原点を見た思いです。

本ゼミでは、いじめや不登校など教育臨床上の諸問題への介入策や、予防的・開発的アプローチとして、ピアサポート・プログラムの学校教育への導入を検討しています。打って出る「プロアクティブな生徒指導」を視野に入れて研究を進めています。



(2) 児童の言語意識育成のために

教職大学院教授 吉村 雅仁

■多言語化する教育現場と外国語活動



文部科学省の発表によると、平成19年9月現在、国内外の公立学校に在籍する、日本語指導が必要な外国人児童生徒は2万5千人を超え（調査開始以来最多）、そのうち約1万8千人は小学校に在籍しています。全国の公立小学校が約2万2千校ですから、単純に計算すると5校中4校にそのような児童がいることとなります。彼らの母国語別構成比を見ると、ポルトガル語、中国語、スペイン語の3言語で全体の7割以上を占め、フィリピン語、韓国・朝鮮語、ベトナム語がそれに続きます。

「厄介な存在」から「貴重な存在」へ

■「厄介な存在」から「貴重な存在」へ

日本語以外の言語を母語とする児童は、学級担任にとって「厄介な存在」かも知れません。何かと支援したいと思っても、児童や保護者が中国語やポルトガル語対話者の場合、為す術がないというのが現状だからです。総合的な学習の時間に、国際理解教育の一環としての外国語活動（次期指導要領では高学年必修）があるものの、原則として英語しか扱われません。実際、「国際理解」と略して英語活動を行いながら、児童の身近にある異言語・異文化の存在を無視していることに気付かない例も多く見受けられます。

このゼミでは数年来、国際理解教育を目的とする小学校英語活動の在り方について、実践を踏まえながら研究をしてきました。その結果、英語活動では、国際理解教育の課題に対応することが極めて困難であることが分かってきました。そこで現在、総合的な学習の時間帯で学級担任が使用可能な多言語・複言語教材の開発を行っています。日本語以外の言語を持つ児童の支援だけではなく、彼らを取り巻く児童の言語意識育成に役立つことを願っています。



4 院生室「宙（そら）」から

理想的な学習環境

院生（08年度入学） 岡本 健太郎

「理想的な学習環境」が奈良教育大学教職大学院の院生室には整っています。

ブースで仕切られた個人デスクと個人用パソコンが一人1台用意されています。レーザープリンタ、インクジェットプリンタ、スキャナ、コピー機などの基本的な印刷関係も完備しています。また

テレビ電話やネット会議ができる機器や、学会や授業を撮影しフィードバックするためのビデオカメラなどが個人に貸し出されています。そして、自宅や勤務先で動画編集作業ができるように、ノート型ハイスペックパソコンも用意されています。

このような万全の設備・環境のなかで、様々な経歴や年代の異なった院生が集まり実際の学校現場に近い環境を作り上げています。教育について学ぶという共通の目標のもと、多種多様な背景をもった人々がお互いの知識を共有し、刺激し合い、高め合っていける環境がここにあります。



5 研修会等案内

(1) 奈良教育大学大学院入試説明会

日時： 6月27日（土）13:30～15:30

場所： 奈良教育大学本部大会議室

参加申込先： 6月19日（金）までに電話またはFAXにより下記までお申し込みください。

奈良教育大学入試課 TEL. 0742-27-9126 FAX. 0742-27-9145

<http://www.nara-edu.ac.jp>

(2) 教職大学院主催シンポジウム案内

テーマ 「教職大学院での学び」

日時： 7月1日（水）14:40～16:40

場所： 奈良教育大学教職大学院棟 1F すばる

●パネリスト ※敬称略

奈良県教育委員会教職員課 課長補佐 奥田秀紀

奈良教育大学教職大学院生 大西千加子（現職院生・M2）

奈良教育大学教職大学院生 伊藤誠朗（ストレート院生・M2）

奈良教育大学教職大学院生 奥山登康（ストレート院生・M1）

奈良教育大学教職大学院生 立道健太（ストレート院生・M1）

奈良教育大学教職大学院教授 安藤輝次

●コーディネーター（司会）

奈良教育大学教職大学院教授 池島徳大

<個別相談会の実施>

教職大学院では、個別相談を随時実施しております。

事前に、事務室までお申し込みください。

教職大学院 事務室

TEL&FAX

0742-27-9354

☆ 編集後記

当ニューズレターは、本年度から年4回発行することになった。また、本号から編集、印刷、発送作業に至る過程の中に院生が積極的に関わってくれることになった。自分たちの手によって、自分たちの教職大学院を広報するという院生の意気込みが強く感じられた。とりわけ、次号からは本格的に参画してくれるということである。その成果について、今後大いに期待したい。（文責 小谷）